

なぶら「花いっぱい運動」



なぶらが管理している3カ所の花壇(水神坂、横浜トンネル、なぶら公園)に、花の苗800株を植えました。

3月11日、町内でまちづくりのボランティア活動を行う団体「なぶら」(長嶋千代美会長)が、国道沿いの花壇の清掃と花の苗の植え替えを行いました。

この行事は「なぶら」が年間通じて行っている花いっぱい運動のひとつとして実施しています。

当日は、5名の少人数でしたが、通りがかりの方から、励ましの言葉や缶コーヒーの差し入れをいただき、和気あいあいのうちに作業を進め、幡多路の東玄関として、春の準備を整えました。



「鹿島神社大祭」で大漁祈願

3月4日に佐賀漁港周辺で、漁師の大漁と航海安手を祈願し、人々の幸せと健康をお祈りする鹿島神社大祭が行われました。

この日は朝から今にも雨が降りそうな天気で、予定を前倒ししてスタート。若い男女が担ぐ男みこしと女みこしが、県漁協佐賀支所前の恵比須神社を出発し、明神・会所・浜町・町分・横浜と、紙垂が飾られた家々の間を練り歩きました。また、黒潮一番館の広場では、小雨の中、色とりどりの衣装に身を包んだ子どもたちが、鼓踊りを披露。一生懸命踊る姿は、かわいらしくも頼もしく、見る人を楽しませてくれました。



小雨の中、小鼓を打ちながら踊る子どもたち。

林間学校でヒノキの植樹体験



斜面にクワで穴を掘り、1本ずつ丁寧に植樹。

幡東森林組合では、毎年、地元小学生を対象に植樹体験学習を行っています。今年は2月24日に、蜷川コトク山にて実施。今回は、森林農地整備センターの水源地造成事業50周年記念事業も同時開催され、佐賀小学校5年生14人と蜷川地区、漁協などから合わせて約80人が参加しました。

式典や植樹指導に続き、50周年を記念して、町の木であるオガタマヤクロマツなど6本を植樹。その後、斜面に登ってヒノキの苗木約300本を植えました。植樹の後は、であいの里蜷川の皆さんが作ったおにぎりや豚汁でお昼ごはん。見晴らしのいい山頂で食べる昼食は格別でした。子どもたちは、「楽しかったけど、急な斜面に植えるのが難しかった」「植えた木が早く大きくなってほしい」と話していました。

「文殊桜」今年は遅めの開花

小黒ノ川地区の「文殊堂」は、国道56号線沿いの赤い門をくぐって少し登った高台にあります。知恵の神様で、受験や就職試験の合格祈願に町内外から多くの方が訪れます。

そのかたわらに立つ「文殊桜」は、濃いピンク色の花が特徴です。早咲きのこの桜も、今年は寒さで開花が遅く、3月半ばを過ぎてようやく見ごろを迎えました。



小黒ノ川地区では、毎年2月に文殊祭りを行っています。今年は桜の時期に合わせて、3月18日に実施。開花したばかりの桜を愛でながらのお祭りとなりました。



庵の中でにぎやかに宴会。